

鎌倉市の少子化の現状と課題

平成27年11月20日

目次

1. 少子化の要因の整理	3
①晩婚化、非婚化、晩産化	
(1) 生涯未婚率、平均初婚年齢、合計特殊出生率	
(2) 晩婚化の理由（男女別）	
②仕事と子育ての両立の難しさ、経済的理由など	
(1) 追加の子どもを実現できない理由	
(2) 理想の子ども数を持たない理由	
(3) 理想的な子どもの数と実際の子どもの数	
(4) 家計の負担感と経済的な状況	
2. 子育て層の実態と支援の方向	10
①就労の状況	
(1) 通勤先	
(2) 通勤時間	
(3) 労働時間	
②女性の就業率に関する統計	
③就労意向（専業主婦）	
④仕事と子育ての両立において必要なこと	
⑤祖父母による子育て支援の状況	
⑥鎌倉市に求めること	
(1) 鎌倉市に住んでいる理由、住み続けている理由	
(2) 同世代の人が鎌倉市に住みたいと思えるために必要なこと	
⑦鎌倉市の実態（近隣市比較）	

1. 少子化の要因の整理

① 晩婚化、非婚化、晩産化

(1) 生涯未婚率、平均初婚年齢、合計特殊出生率

生涯未婚率

➤ 鎌倉市の生涯未婚率は、男性で19.1%、女性で13.9%となっており、比較都市の中でも武蔵野市、三鷹市に次いで、**女性の未婚率が高くなっている**状況である。

平均初婚年齢

➤ 鎌倉市の平均初婚年齢は、男性で32.7歳、女性で30.9歳となっており、武蔵野市、三鷹市、多摩市、逗子市とともに**首都圏でも高い水準**となっている。

合計特殊出生率

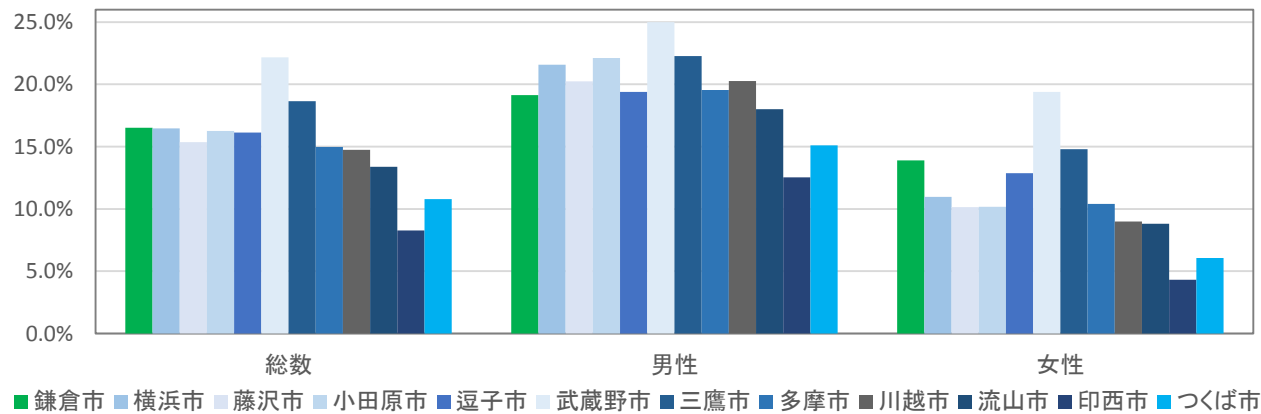
➤ 鎌倉市の合計特殊出生率は、武蔵野市1.14、三鷹市1.15、多摩市1.13と同水準の1.19となっているが、横浜市1.27、藤沢市1.37に対しては下回っている。

	生涯未婚率			平均初婚年齢		合計特殊出生率
	総数	男性	女性	男性	女性	
鎌倉市	16.5%	19.1%	13.9%	32.7	30.9	1.19
横浜市	16.5%	21.6%	11.0%	31.4	29.6	1.27
藤沢市	15.4%	20.2%	10.1%	31.2	29.6	1.37
小田原市	16.3%	22.1%	10.2%	31.0	29.2	1.24
逗子市	16.1%	19.4%	12.9%	33.3	31.0	1.34
武蔵野市	22.2%	25.0%	19.4%	32.0	30.2	1.14
三鷹市	18.7%	22.3%	14.8%	32.3	30.7	1.15
多摩市	15.0%	19.6%	10.4%	32.5	30.2	1.13
川越市	14.8%	20.3%	9.0%	-	-	1.39
流山市	13.4%	18.0%	8.8%	-	-	1.5
印西市	8.3%	12.5%	4.3%	-	-	1.29
つくば市	10.8%	15.1%	6.1%	30.8	29.4	1.37

生涯未婚率：国勢調査より45～49歳、50～54歳の未婚率平均により算出

平均初婚年齢および合計特殊出生率：各都道府県公表している人口動態統計(平成25年)より作成

生涯未婚率



出生率低下の原因となる晩婚化、非婚化、晩産化が進んでいる。

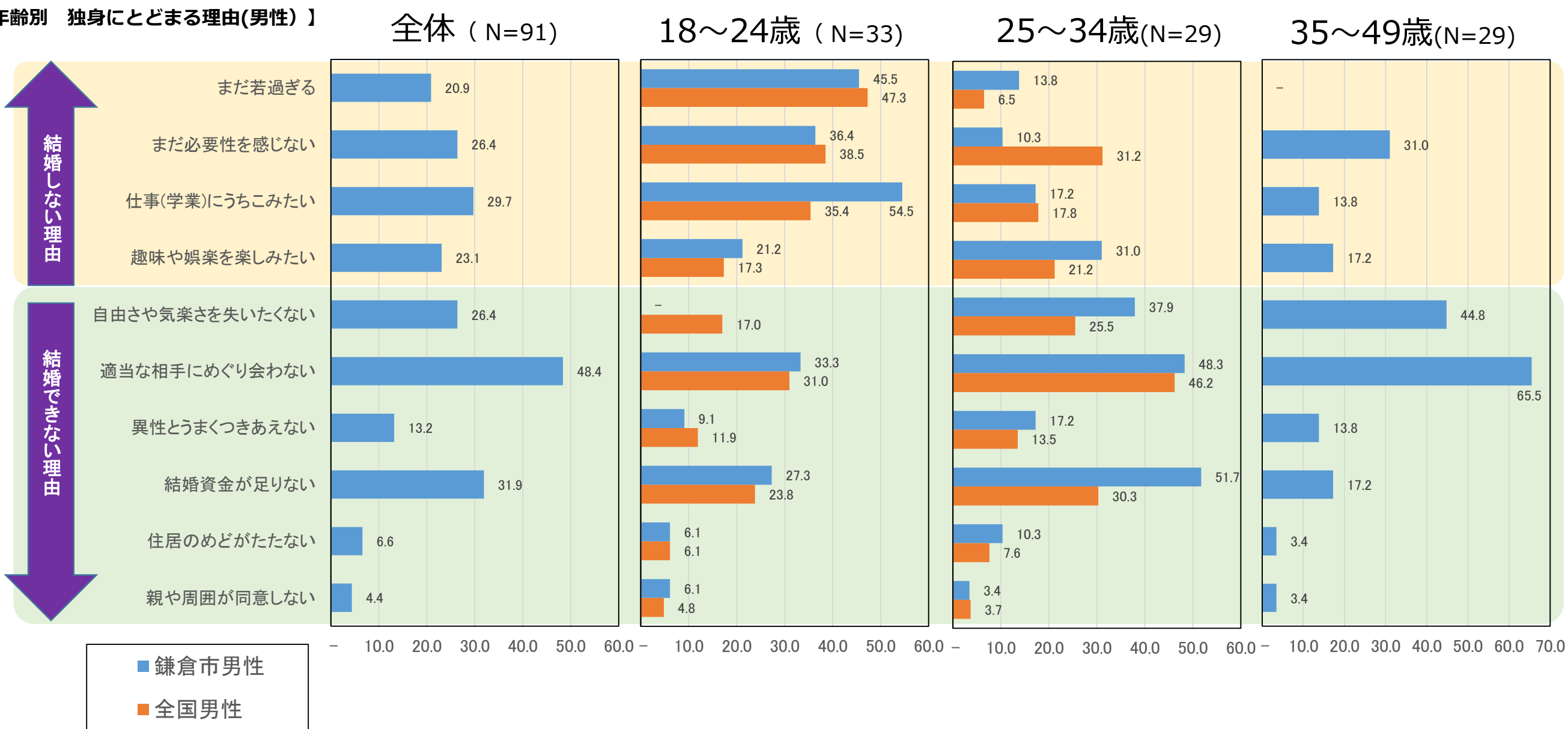
1. 少子化の要因の整理

① 晩婚化、非婚化、晩産化

(2) 晩婚化の理由 (男女別)

➤ 男性の独身にとどまる理由のうち、「結婚できない理由」を見ると、「適切な相手にめぐりあわない」が高く、年齢が上がるにつれて高くなる。また、「25～34歳」では「結婚資金が足りない」が51.7%と最も高くなっている。

【年齢別 独身にとどまる理由(男性)】

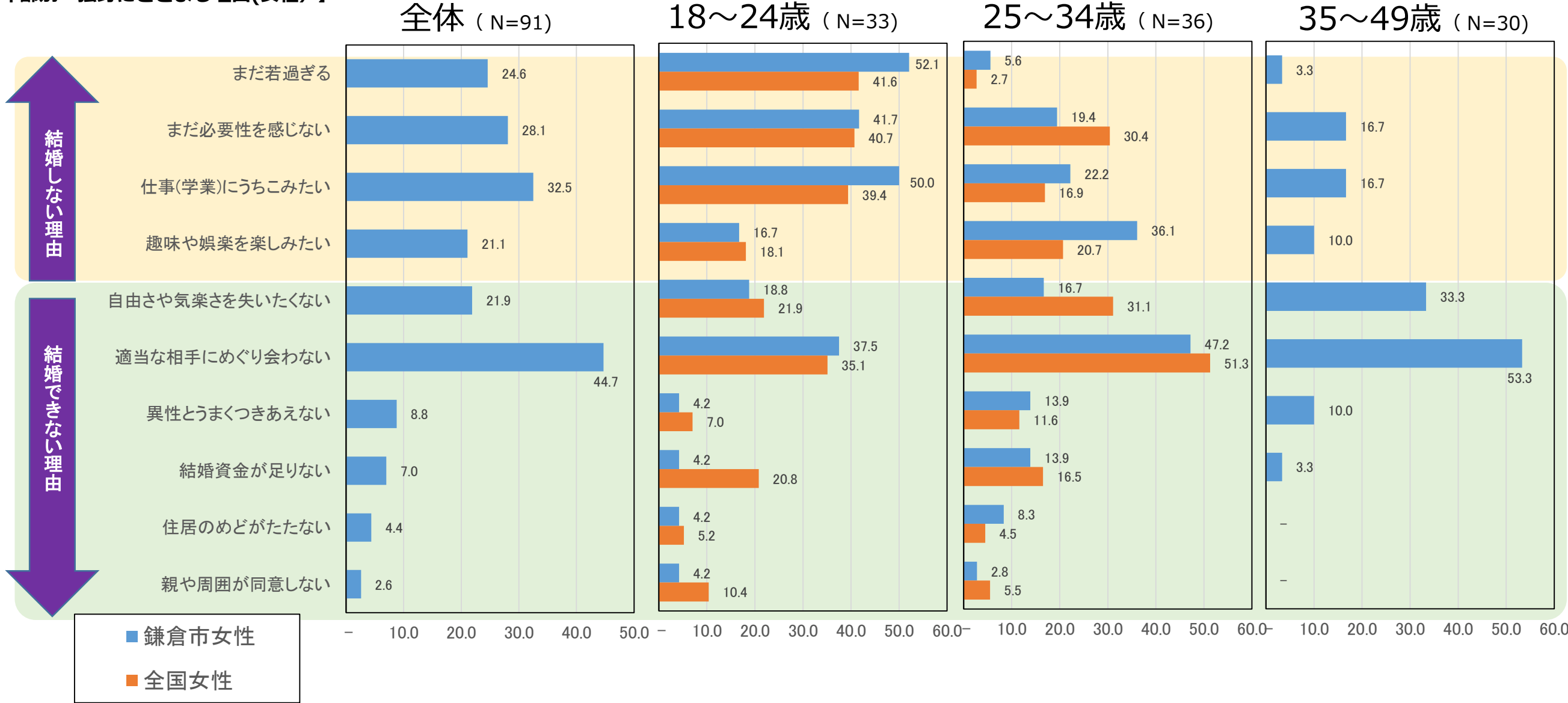


1. 少子化の要因の整理

① 晩婚化、非婚化、晩産化

➤ 女性の独身にとどまる理由のうち、「結婚できない理由」を見ると、「結婚できない理由」は男性同様、「適切な相手にめぐり合わない」が最大となっている。男性と比較すると「結婚資金が足りない」の割合は低くなっている。

【年齢別 独身にとどまる理由(女性)】



男女ともに結婚をする積極的理由の欠如や、25歳を過ぎると適切な相手がないことが制約となる。

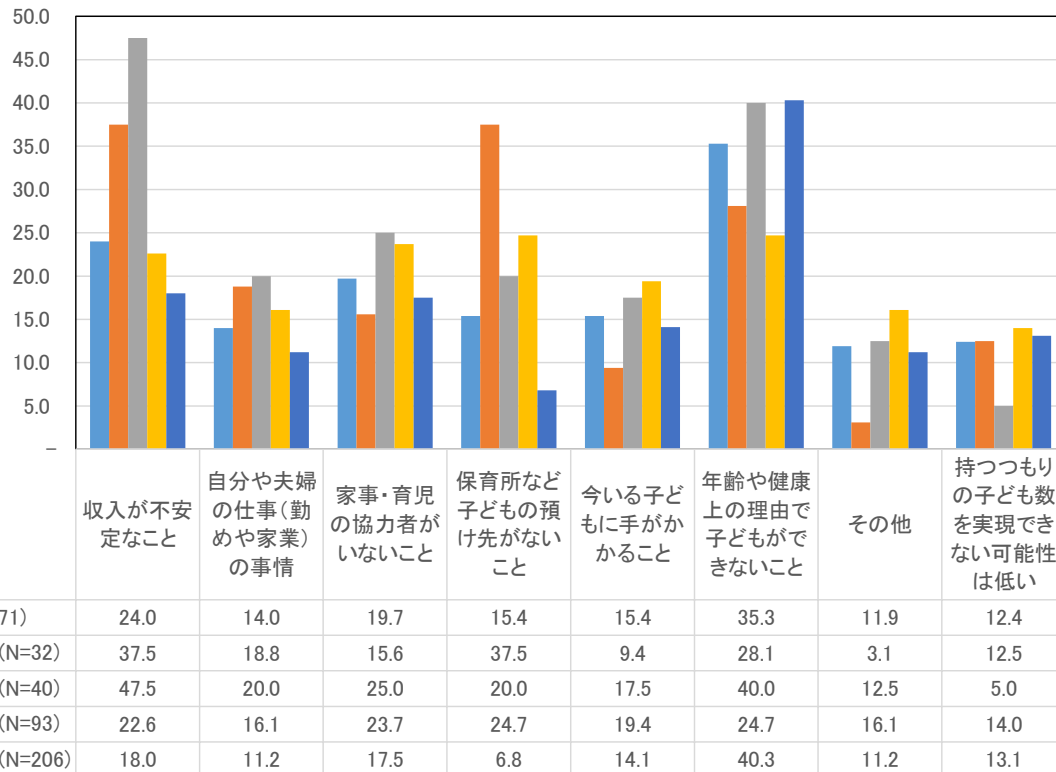
1. 少子化の要因の整理

②仕事と子育ての両立の難しさ、経済的理由など

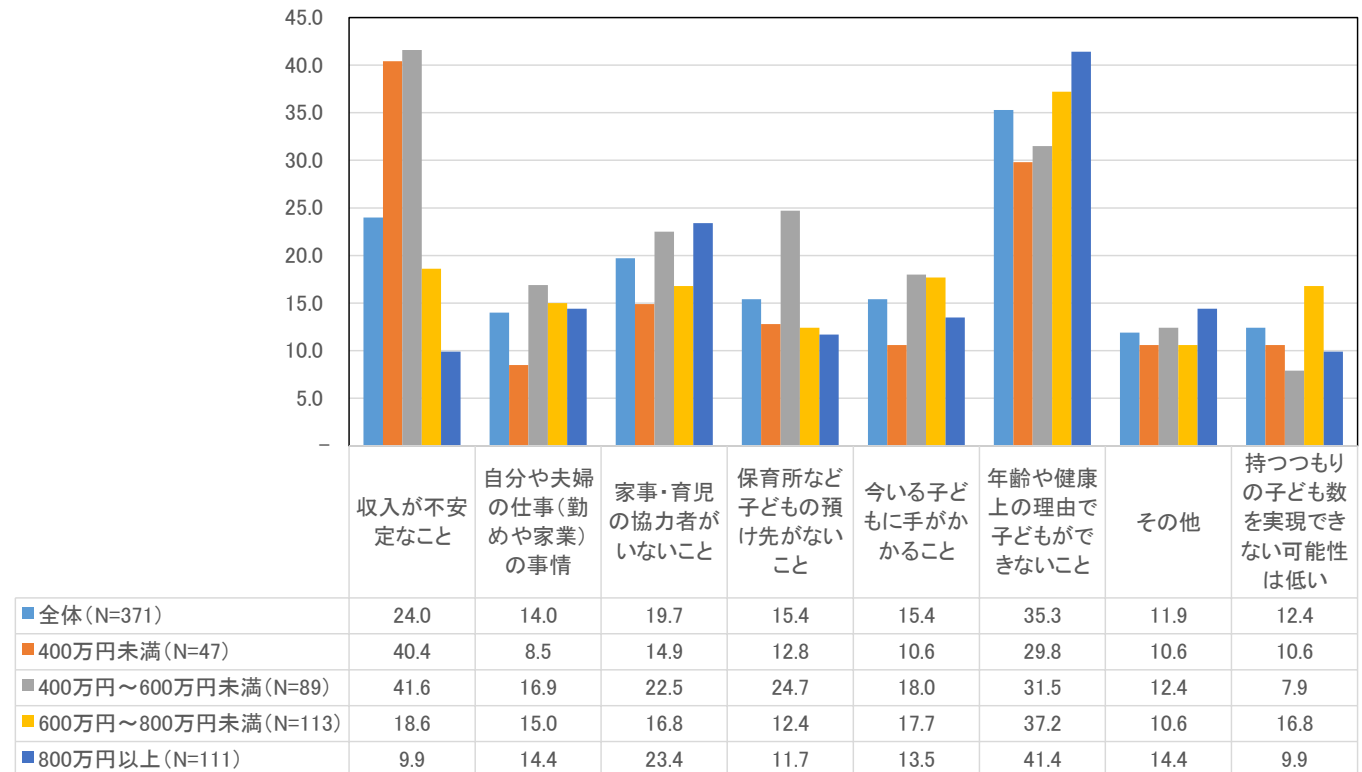
(1) 追加の子どもを実現できない理由

➤ 追加の子どもを実現できない理由は、全体的に「収入が不安定なこと」「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」が高くなっている。年齢別では、年齢が上がるにつれて、「収入が不安定なこと」が減少している。また、年収別では、年収が上がるにつれて、「収入が不安定なこと」が減少している。

【年齢別 追加の子どもを実現できない理由】



【年収別 追加の子どもを実現できない理由】



追加の子どもを実現できない理由は、収入や年齢・健康上の理由が最大となっている。

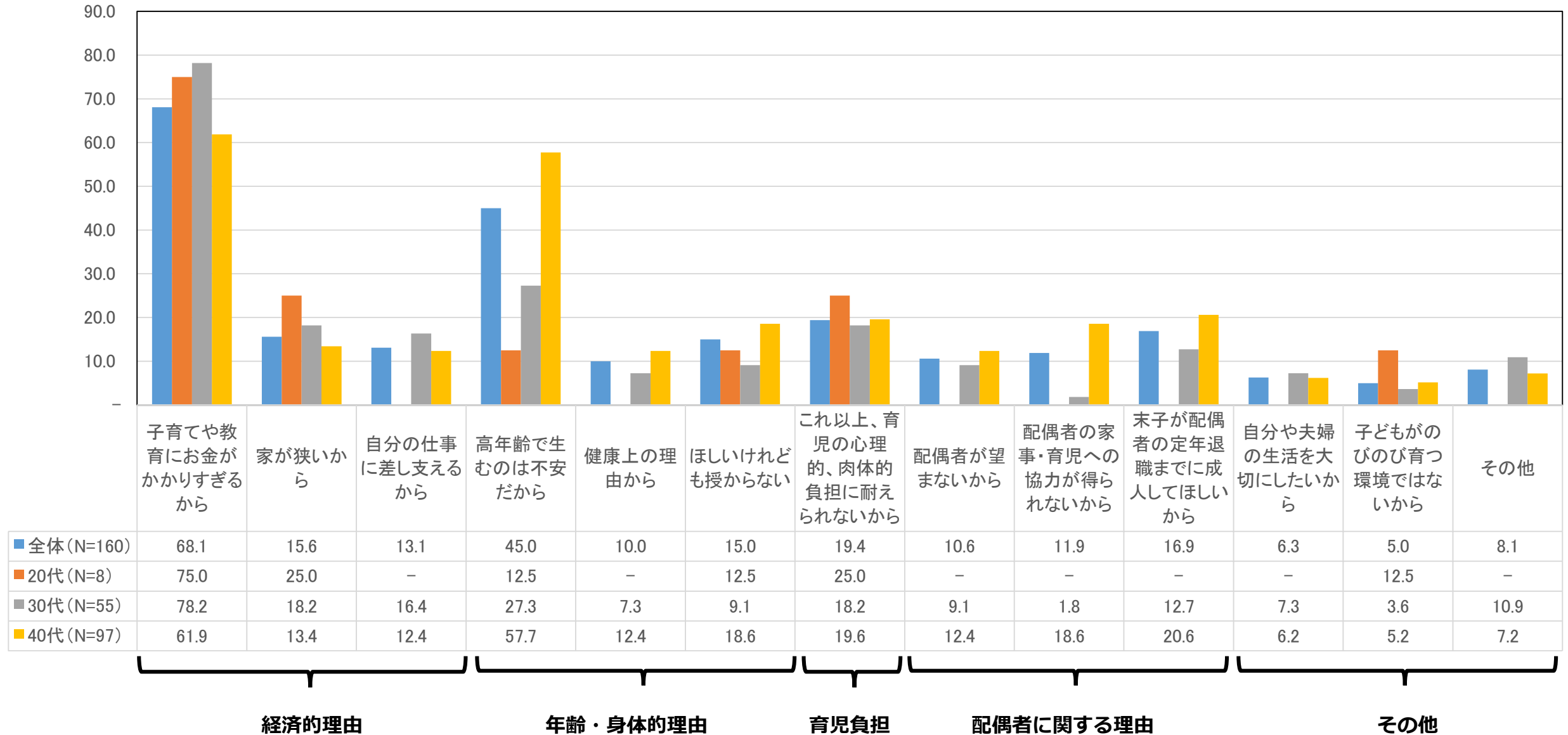
1. 少子化の要因の整理

②仕事と子育ての両立の難しさ、経済的理由など

(2) 理想の子ども数を持たない理由

➤ 理想の子ども数を持たない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が高く、全体で約7割となっている。40歳代では「高年齢で生むのは不安だから」が57.7%と高くなっている。

【年齢別 理想の子ども数を持たない理由】



理想の子ども数を持たない最大の理由は子育ての費用である。
高年齢層では年齢・身体的理由が多くなる。

1. 少子化の要因の整理

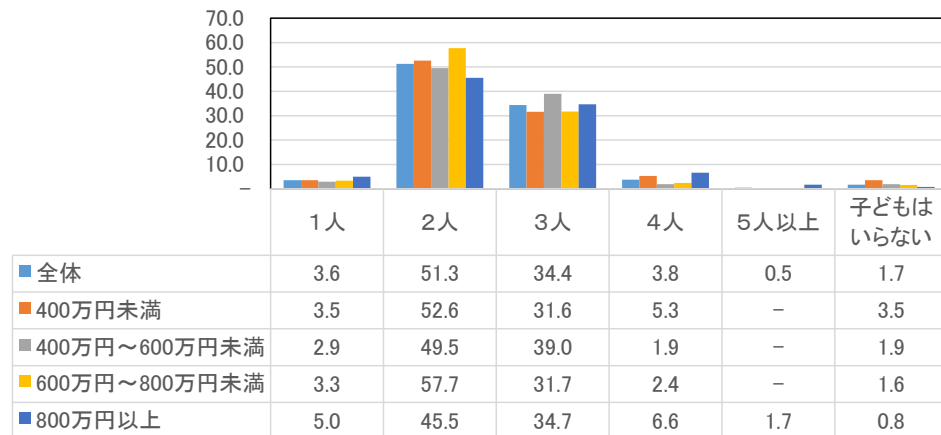
② 仕事と子育ての両立の難しさ、経済的理由など

(3) 理想的な子どもの数と実際の子どもの数

① 理想的な子どもの人数（既婚者）

➤ 年収別に理想の子どもの人数をみると、どの年収層も「2人」が最も多くなっている。

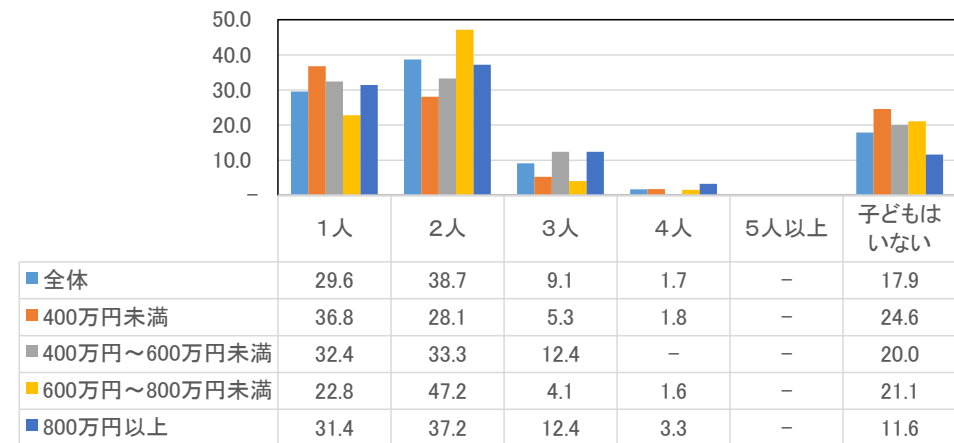
【年収別 年齢別 理想的な子どもの人数（既婚者）】



② 子どもの人数（既婚者）

➤ 年収別に子どもの人数をみると、「400万未満」で「1人」が36.8%と最も高く、それ以上の年収では「2人」が最も高くなっている。

【年収別 子どもの人数（既婚者）】



③ 子どもの人数（子育て中の方）

➤ 子育て中の方の子どもの人数についてみると、正規の職員・社員の場合では「1人」、「パート・アルバイト」「専業主婦」では「2人」の割合が高くなっている。

➤ 子どもが2人以上の場合は、「パート・アルバイト」「専業主婦」の割合が高くなる。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 女性の勤務状況別 子どもの人数】

女性勤務状況	上段:度数 下段:%	子どもの人数				
		合計	1人	2人	3人	4人
女性勤務状況	全体	219	78	97	32	5
		100.0	35.6	44.3	14.6	2.3
	正規の職員・社員(会社役員以外)	48	25	15	4	2
		100.0	52.1	31.3	8.3	4.2
	パート・アルバイト	45	8	29	8	-
	100.0	17.8	64.4	17.8	-	
専業主婦・主夫	109	39	45	19	3	
	100.0	35.8	41.3	17.4	2.8	

理想的には子どもは2人か3人であるが、実際は1人か2人が多い。
子育て中の女性が正規就労である場合は、子どもを2人以上持つ割合は下がる。

1. 少子化の要因の整理

②仕事と子育ての両立の難しさ、経済的理由など

(4) 家計の負担感と経済的な状況

①家計の負担感

▶ 家計での経済的負担が大きい項目は、「家賃・住宅ローン」が高くなっているが、**年齢が上がるにつれて「子どもの養育費・学費」の割合が高くなっている。**

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 家計の負担感】

上段:度数 下段:%		問12 家計での経済的負担が大きい項目							
		合計	家賃・住宅ローン	子どもの養育費・学費	生活費(食費など)	娯楽・交際費	介護費	医療費	その他
年齢	全体(子育て中の方)	365 100.0	193 52.9	79 21.6	82 22.5	1 0.3	1 0.3	2 0.5	3 0.8
	20歳代	15 100.0	5 33.3	-	10 66.7	-	-	-	-
	30歳代	119 100.0	68 57.1	17 14.3	31 26.1	-	1 0.8	-	1 0.8
	40歳代	201 100.0	110 54.7	48 23.9	36 17.9	1 0.5	-	2 1.0	1 0.5
	50歳代	30 100.0	10 33.3	14 46.7	5 16.7	-	-	-	1 3.3

②年収の状況

▶ 年収については、共働きの世帯や、一方の就労の希望がない世帯、「40歳代」、「50歳代」の年齢層において「800万円以上」が3割以上と高くなっている。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 就労状況・希望別 年齢別 年収の状況】

上段:度数 下段:%		問16(1) 世帯の年収					
		合計	400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円以上	不明・無回答
問19 あなた の家庭では 夫婦ともに働 いていますか。 あるいは一方 のみが働いて いますか。	全体(子育て中の方)	350 100.0	44 12.6	84 24.0	98 28.0	111 31.7	13 3.7
	夫婦ともに働いている(共働き)	168 100.0	14 8.3	44 26.2	49 29.2	57 33.9	4 2.4
	一方は働いていないが、将来的な就業希望はある	101 100.0	22 21.8	24 23.8	28 27.7	24 23.8	3 3.0
	一方は働いておらず、今のところ就業希望もない	81 100.0	8 9.9	16 19.8	21 25.9	30 37.0	6 7.4
	どちらも働いていない	-	-	-	-	-	-
	年齢	20歳代	15 100.0	4 26.7	8 53.3	2 13.3	1 6.7
30歳代		119 100.0	23 19.3	33 27.7	34 28.6	23 19.3	6 5.0
40歳代		201 100.0	20 10.0	44 21.9	52 25.9	78 38.8	7 3.5
50歳代		30 100.0	6 20.0	3 10.0	10 33.3	11 36.7	-

年代があがるにつれて子どもの養育費・学費等の負担感が多くなっている。

2. 子育て層の実態と支援の方向

① 就労の状況

(1) 通勤先

- ▶ 勤務状況別に通勤先をみると、男性の「正規の職員・社員」では「東京23区」が47.4%と約半数を占めている。
- ▶ 一方、女性の状況をみると、「正規の職員・社員」では「横浜市内」が30.8%と最も高く、次いで「鎌倉市内」が28.8%、「東京23区」が17.3%となっている。また、女性の「パート・アルバイト」では「鎌倉市内」が69.1%と最も高く、次いで「横浜市内」が12.7%となっており、鎌倉市内で就労している人が非常に多いことがわかる。なお、今回のアンケートで回答をいただいた女性全体では、「鎌倉市内」で働いている人の割合は32.6%となっていることから、子育て中の方の市内就労のニーズは高いものがあると考えられる。
- ▶ 子育て中の鎌倉市の男性では圧倒的に東京圏への通勤が多く、一方、女性では、東京への通勤者は少なく、「正規の職員・社員」で鎌倉市内や横浜市内が多く、また、「パート・アルバイト」では市内就労が圧倒的に多い状況が見られ、職住近接性を求める傾向にあることがいえる。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 男女勤務状況別 通勤先・通学先】

上段:度数 下段:%		問9 通勤先・通学先									
		合計	鎌倉市内	横浜市内	川崎市内	藤沢市内	神奈川県内 (左記以外)	東京23区	東京都(東京 23区以外)	上記以外	不明・無回答
男性 勤務状況	全体	113	19	19	2	3	10	51	2	2	5
		100.0	16.8	16.8	1.8	2.7	8.8	45.1	1.8	1.8	4.4
	正規の職員・社員 (会社役員以外)	97	12	18	2	3	9	46	2	2	3
		100.0	12.4	18.6	2.1	3.1	9.3	47.4	2.1	2.1	3.1
	会社役員	6	-	1	-	-	-	4	-	-	1
		100.0	-	16.7	-	-	-	66.7	-	-	16.7
パート・アルバイト	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	
自営業等(農林業 含む)	8	6	-	-	-	1	1	-	-	-	
	100.0	75.0	-	-	-	12.5	12.5	-	-	-	
女性 勤務状況	全体	128	68	25	1	8	10	13	1	1	
		100.0	53.1	19.5	0.8	6.3	7.8	10.2	0.8	0.8	
	正規の職員・社員 (会社役員以外)	52	15	16	1	5	6	9	-	-	
		100.0	28.8	30.8	1.9	9.6	11.5	17.3	-	-	
	会社役員	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
		100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
パート・アルバイト	55	38	7	-	3	3	2	1	-		
	100.0	69.1	12.7	-	5.5	5.5	3.6	1.8	-		
派遣・嘱託・契約 社員	6	2	2	-	-	1	1	-	-		
	100.0	33.3	33.3	-	-	16.7	16.7	-	-		
自営業等(農林業 含む)	10	10	-	-	-	-	-	-	-		
	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-		

(2) 通勤時間

- ▶ 勤務状況別に通勤時間をみると、男性の「正規の職員・社員」で「60分以上（「60分以上～90分未満」と「90分以上」の合計）」が54.6%と約半数を占めている。
- ▶ 一方、女性の状況をみると、「正規の職員・社員」では「60分以上」が34.6%と最も高くなっているが、東京圏への通勤が少ないため「90分以上」の割合は少なく、「30分以内」が28.8%となっている。また、女性の「パート・アルバイト」では「30分以内」が72.7%となっており、市内就労が多いため、通勤時間が短い人が多くなっている。
- ▶ 男女ともに子育て中の「正規の職員・社員」では、通勤時間が長くなる傾向にあり、男性でその特徴が顕著になっている。「パート・アルバイト」では、通勤時間が短いことが重要であることがうかがえる。通勤時間でみても、女性はより職住近接性を求める傾向にある。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 男女勤務状況別 通勤時間】

上段:度数 下段:%		問8 通勤時間(片道)							不明・無回答
		合計	15分未満	15分以上～ 30分未満	30分以上～ 45分未満	45分以上～ 60分未満	60分以上～ 90分未満	90分以上	
男性 勤務状況	全体	113	12	8	7	23	35	23	5
		100.0	10.6	7.1	6.2	20.4	31.0	20.4	4.4
	正規の職員・社員 (会社役員以外)	97	6	7	6	22	32	21	3
		100.0	6.2	7.2	6.2	22.7	33.0	21.6	3.1
	会社役員	6	-	-	-	1	2	2	1
		100.0	-	-	-	16.7	33.3	33.3	16.7
パート・アルバイト	2	-	1	-	-	-	-	1	
	100.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	
自営業等(農林業 含む)	8	6	-	1	-	1	-	-	
	100.0	75.0	-	12.5	-	12.5	-	-	
女性 勤務状況	全体	128	36	35	14	13	23	4	3
		100.0	28.1	27.3	10.9	10.2	18.0	3.1	2.3
	正規の職員・社員 (会社役員以外)	52	6	9	9	10	15	3	-
		100.0	11.5	17.3	17.3	19.2	28.8	5.8	-
	会社役員	1	1	-	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
パート・アルバイト	55	17	23	5	1	6	1	2	
	100.0	30.9	41.8	9.1	1.8	10.9	1.8	3.6	
派遣・嘱託・契約 社員	6	1	2	-	2	1	-	-	
	100.0	16.7	33.3	-	33.3	16.7	-	-	
自営業等(農林業 含む)	10	10	-	-	-	-	-	-	
	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	
その他	4	1	1	-	-	1	-	1	
	100.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	25.0	

2. 子育て層の実態と支援の方向

① 就労状況

(3) 労働時間

- 勤務状況別に平均的な1日の労働時間をみると、「正規の職員・社員」の「8時間以内」の割合は、男性が35.8%、女性が78.9%となっており、女性の方が労働時間が短い傾向が見られる。また、女性の「パート・アルバイト」では「6時間未満」が74.5%と短時間の労働が圧倒的に多くなっている。
- 男性の「正規の職員・社員」で「9時間以上」の労働時間の割合は59.8%と高くなっている。
- 子育て中の男性では相対的に長時間労働の割合が高く、女性では労働時間が短い傾向にある。家庭での子育て支援の役割により、女性の労働時間がより短くなる傾向が関係していると思われる。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 男女勤務状況別 平均的な1日の労働時間】

上段:度数 下段:%		問7 平均的な1日の労働時間								
		合計	6時間未満	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間以上	不明・無回答
男性 勤務状況	全体	113 100.0	4 3.5	7 6.2	33 29.2	25 22.1	26 23.0	6 5.3	7 6.2	5 4.4
	正規の職員・社員(会社役員以外)	97 100.0	1 1.0	7 7.2	26 26.8	24 24.7	22 22.7	6 6.2	6 6.2	5 5.2
	会社役員	6 100.0	-	-	2 33.3	-	3 50.0	-	1 16.7	-
	パート・アルバイト	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-
	自営業等(農林業含む)	8 100.0	2 25.0	-	4 50.0	1 12.5	1 12.5	-	-	-
	女性 勤務状況	全体	128 100.0	58 45.3	27 21.1	25 19.5	4 3.1	2 1.6	1 0.8	2 1.6
正規の職員・社員(会社役員以外)	52 100.0	7 13.5	16 30.8	18 34.6	4 7.7	1 1.9	1 1.9	2 3.8	3 5.8	
会社役員	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	
パート・アルバイト	55 100.0	41 74.5	6 10.9	3 5.5	-	-	-	-	5 9.1	
派遣・嘱託・契約社員	6 100.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	-	-	-	-	-	
自営業等(農林業含む)	10 100.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	-	-	-	-	1 10.0	
その他	4 100.0	3 75.0	-	1 25.0	-	-	-	-	-	

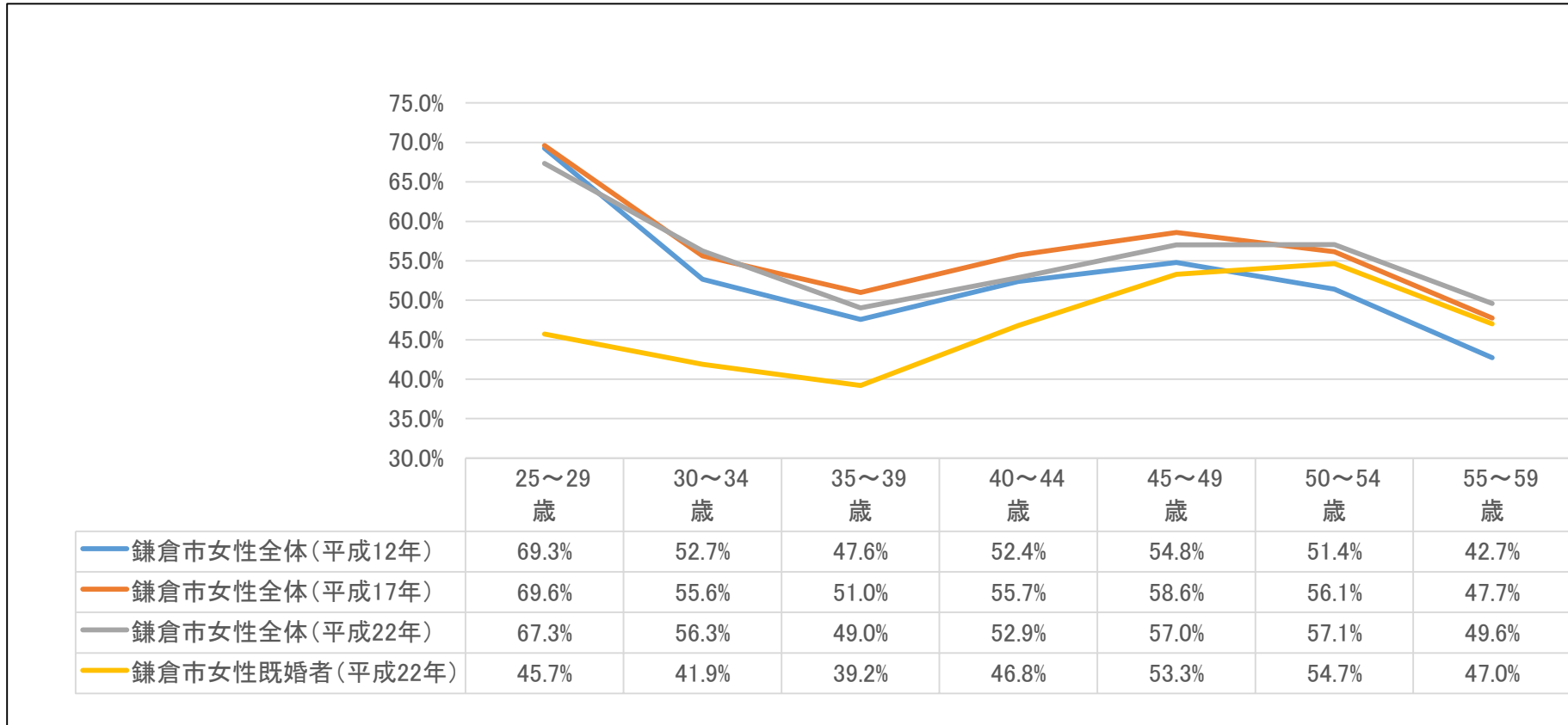
特に男性において労働時間や通勤時間などの仕事関連の拘束時間の長さにより、家庭生活の時間が確保できにくい現状も伺える。女性では子育てにおける負担感から労働時間や通勤時間が短いことが必要な就労条件であることが伺える。

2. 子育て層の実態と支援の方向

② 女性の就業率に関する統計

- 鎌倉市の女性の就業率の推移をみると、本市の女性の就業率は、平成12年から平成17年までを比較すると20歳代後半から30歳代後半にかけて曲線の谷間が浅くなるなど、就業率が上昇していたが、平成17年から平成22年までを比較すると「30～34歳」のみの上昇となっている。
- 平成22年の鎌倉市の女性既婚者の就業率をみると、「35～39歳」の年齢層で最も低下し、その以降では年齢層に応じて50歳代前半まで上昇している。

【女性の就業率（国勢調査）】



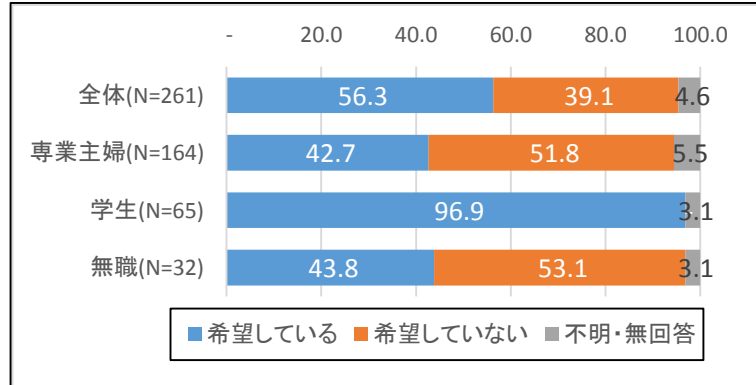
直近では鎌倉市の女性の就業率の伸びがあまり見られない。
既婚者の35～39歳の就業率が最も低く、結婚や出産を機に仕事から離れる人の割合が高いことが伺える。

2. 子育て層の実態と支援の方向

③就労意向（専業主婦）

▶ 専業主婦の就労希望は、42.7%となっており、そのうち、72.9%の人が「パート・アルバイト」での就労形態を希望している。就労場所については、「鎌倉市内」が90.0%であり、ほとんどの方が市内での就労を希望している。希望する産業は、サービス業や教育関係、卸売業・小売業等の産業への希望が高くなっている。

【勤務状況別 就労希望】



【勤務状況別 就労希望の場所】

上段:度数 下段:%	合計	鎌倉市内	横浜市内	神奈川県内(鎌倉市、横浜市以外)	東京	どこでもよい
全体	147 100.0	82 55.8	8 5.4	11 7.5	17 11.6	23 15.6
専業主婦・主夫	70 100.0	63 90.0	2 2.9	3 4.3	1 1.4	1 1.4
学生	63 100.0	8 12.7	6 9.5	7 11.1	16 25.4	20 31.7
無職	14 100.0	11 78.6	-	1 7.1	-	2 14.3

【勤務状況別 就労形態の希望】

上段:度数 下段:%	合計	正規の職員・社員	パート・アルバイト	派遣・嘱託・契約社員	自営業等(農林業含む)	その他
全体	147 100.0	75 51.0	56 38.1	5 3.4	7 4.8	4 2.7
専業主婦・主夫	70 100.0	13 18.6	51 72.9	3 4.3	3 4.3	-
学生	63 100.0	58 92.1	-	-	3 4.8	2 3.2
無職	14 100.0	4 28.6	5 35.7	2 14.3	1 7.1	2 14.3

【勤務状況別 希望する産業】

上段:度数 下段:%	合計	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	宿泊業、飲食サービス業	卸売業、小売業	学術研究、専門・技術サービス業	公務(他に分類されるものを除く)	製造業	金融業、保険業	情報通信業	介護サービス業
全体	147 100.0	29 19.7	29 19.7	22 15.0	26 17.7	25 17.0	22 15.0	17 11.6	13 8.8	18 12.2	7 4.8
専業主婦・主夫	70 100.0	20 28.6	17 24.3	17 24.3	16 22.9	10 14.3	7 10.0	7 10.0	7 10.0	6 8.6	5 7.1
学生	63 100.0	6 9.5	9 14.3	4 6.3	6 9.5	12 19.0	13 20.6	9 14.3	6 9.5	11 17.5	2 3.2
無職	14 100.0	3 21.4	3 21.4	1 7.1	4 28.6	3 21.4	2 14.3	1 7.1	-	1 7.1	-

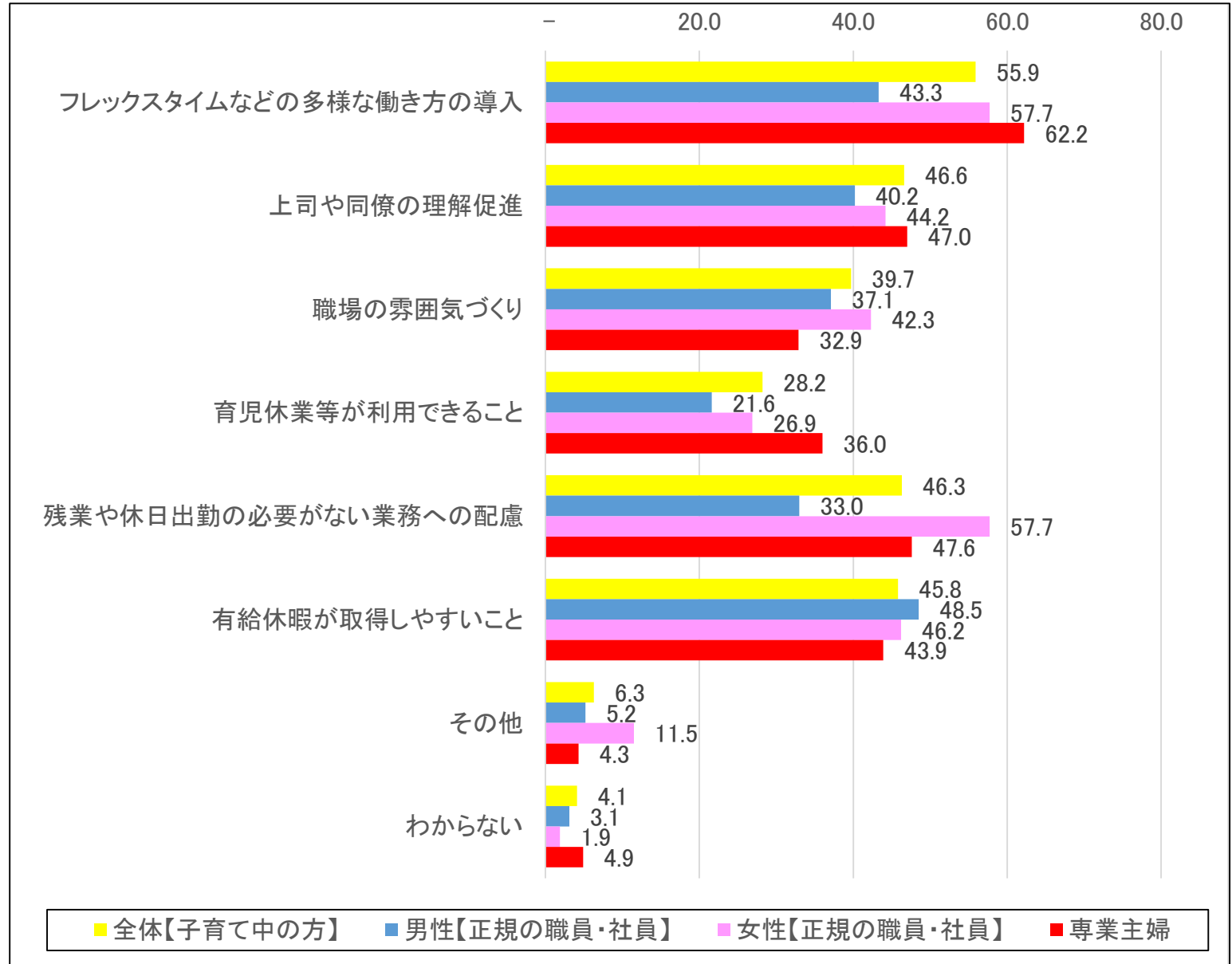
専業主婦では、「パート・アルバイト」の就労形態、鎌倉市内で働きたい人が多い。

2. 子育て層の実態と支援の方向

④ 仕事と子育ての両立において必要なこと

- ▶ 仕事と子育ての両立のため、職場で実施してほしい取組についてみると、女性【正規の職員・社員】では、男性【正規の職員・社員】に比べても、「フレックスタイムなどの多様な働き方の導入」と「残業や休日出勤の必要がない業務への配慮」でそれぞれ14.4ポイント、24.7ポイント高くなっている。
- ▶ 専業主婦も同様の傾向が見られるが、「フレックスタイムなどの多様な働き方の導入」が高い背景としては、短時間労働など、希望や条件にあう仕事が確保しにくい現状が伺える。
- ▶ 女性の就労における要望としては、労働時間における柔軟な制度や、残業や休日出勤等に配慮されることがより必要であることが伺える。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 仕事と子育ての両立のため、職場で実施してほしい取組】



女性の就労においては、特に、労働時間に十分に配慮することが必要である。
短時間労働など自分の希望や条件にあう仕事が確保が求められている。

2. 子育て層の実態と支援の方向

⑤ 祖父母による子育て支援の状況

- ▶ 祖父母による子育て支援（金銭的な支援を除く）の状況について年齢別にみると、両親から支援を受けられる人（「週に1回以上受けている」「月に1～2回受けている」の合計）は「20歳代」「30歳代」で約5割となっているが、半数以上の方が支援を受けていない現状にある
- ▶ 子育て世代のすべての方が祖父母の支援を受けられるとは限られないことから、これまで以上に地域や社会が子どもの育ちや子育て家庭を支援していく必要があります。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 男女勤務状況別 通勤先・通学先】

上段:度数 下段:%		両親による子育て支援(金銭的な支援を除く)状況について					
		合計	週に1回以上受けている	月に1～2回受けている	2ヶ月に1回受けている	半年に1～2回受けている	1年に1回以下である(まったく受けていない場合も含む)
年齢	全体	365 100.0	82 22.5	53 14.5	29 7.9	51 14.0	150 41.1
	20歳代	15 100.0	3 20.0	4 26.7	1 6.7	4 26.7	3 20.0
	30歳代	119 100.0	32 26.9	26 21.8	12 10.1	23 19.3	26 21.8
	40歳代	201 100.0	44 21.9	22 10.9	14 7.0	24 11.9	97 48.3
	50歳代	30 100.0	3 10.0	1 3.3	2 6.7	- -	24 80.0
		支援を受けやすい人 37.0%			支援を受けにくい人 63.0%		

これまで以上に地域や社会が子どもの育ちや子育て家庭を支援していく必要がある。

2. 子育て層の実態と支援の方向

⑥ 鎌倉市に求めること

(1) 鎌倉市に住んでいる理由、住み続けている理由

➤ 現在、鎌倉市に住んでいる、または住み続けている理由については、住居などの必然的な要因の他に、自然環境や都市環境が高くなっているが、子育て環境を理由に暮らしている人は少ない。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 年齢別 鎌倉市に住んでいる理由、住み続けている理由】

上段:度数		現在、鎌倉市に住んでいる、または住み続けている理由										
下段:%		合計	配偶者が住んでいた、または、親族・知人が近くに住んでいる	山並みの緑などの自然環境	海のある自然環境	街並みや街の雰囲気	通勤・通学時間	住宅が用意されていたから(社宅、家族と同居、家族の持ち家)	住宅の条件(広さ、静けさ)	最寄り駅へのアクセス	買い物の利便性	子育て環境
年齢	全体(子育て中の方)	365 100.0	144 39.5	88 24.1	84 23.0	84 23.0	77 21.1	59 16.2	62 17.0	52 14.2	38 10.4	36 9.9
	20歳代	15 100.0	7 46.7	-	1 6.7	3 20.0	3 20.0	3 20.0	2 13.3	-	2 13.3	1 6.7
	30歳代	119 100.0	52 43.7	27 22.7	29 24.4	30 25.2	23 19.3	20 16.8	21 17.6	12 10.1	10 8.4	16 13.4
	40歳代	201 100.0	77 38.3	55 27.4	48 23.9	45 22.4	49 24.4	29 14.4	34 16.9	31 15.4	21 10.4	17 8.5
	50歳代	30 100.0	-	6 20.0	6 20.0	6 20.0	2 6.7	-	5 16.7	9 30.0	5 16.7	2 6.7

(2) 同世代の人が鎌倉市に住みたいと思えるために必要なこと

➤ 20代、30代で「子育てしやすい環境(保育所など小学校就学前の環境)」が高く、就学前の支援の充実が求められている。

【〈子育て中の方のみ抽出集計〉 年齢別 同世代の人が鎌倉市に住みたいと思えるために必要なこと】

上段:度数		同世代の人が鎌倉市に住みたいと思えるために必要なこと										
下段:%		合計	子育てしやすい環境(保育所など小学校就学前の環境)	安全・安心な生活環境の点で不安や問題がないこと	土地や住宅が取得しやすい価格であること	交通の便がよいこと	医療や介護の問題	緑や水辺空間などの自然環境の保全・創出	小中学校教育の充実	買い物や趣味、娯楽を楽しめる場所が十分にあること	雇用が十分にあること	魅力的な活動が十分にあること
年齢	全体(子育て中の方)	365 100.0	196 53.7	147 40.3	108 29.6	96 26.3	92 25.2	87 23.8	83 22.7	78 21.4	45 12.3	31 8.5
	20歳代	15 100.0	14 93.3	2 13.3	3 20.0	3 20.0	4 26.7	2 13.3	2 13.3	5 33.3	3 20.0	2 13.3
	30歳代	119 100.0	86 72.3	40 33.6	36 30.3	28 23.5	24 20.2	28 23.5	35 29.4	23 19.3	13 10.9	12 10.1
	40歳代	201 100.0	90 44.8	95 47.3	62 30.8	57 28.4	56 27.9	43 21.4	38 18.9	41 20.4	26 12.9	15 7.5
	50歳代	30 100.0	6 20.0	10 33.3	7 23.3	8 26.7	8 26.7	14 46.7	8 26.7	9 30.0	3 10.0	2 6.7

2. 子育て層の実態と支援の方向

⑦ 鎌倉市の実態（近隣市比較）

(1) 小児医療費助成

平成27年10月1日現在

自治体名	対象年齢上限 (通院)	対象年齢上限 (入院)	所得制限
横浜市	小学3年	中学3年	1歳以上
藤沢市	小学3年	中学3年	中学1年以上
逗子市	小学6年	中学3年	1歳以上
茅ヶ崎市	小学3年	中学3年	4歳以上
鎌倉市	小学6年	中学3年	小学1年以上

引用元：医療費助成関係事務研究会資料

(2) 待機児童数

平成27年4月1日現在

自治体名	H27	0歳～6歳の人口 (H27.1.1現在)	左記人口 に対する割合
横浜市	8人	217,944人	0.004%
藤沢市	83人	26,579人	0.312%
逗子市	4人	3,012人	0.133%
茅ヶ崎市	115人	14,745人	0.780%
鎌倉市	50人	9,228人	0.542%

引用元：平成27年6月25日神奈川県記者発表資料
神奈川県年齢別人口統計調査（平成27年7月31日公表）

(3) 公立保育園・学童数

平成25年10月1日現在

平成26年5月1日現在

自治体名	公立 保育園数	学童数 (小学校数)	学童運営形態
横浜市	90	238(341)	補助
藤沢市	16	35(35)	委託
逗子市	2	5(5)	委託
茅ヶ崎市	7	19(19)	委託
鎌倉市	6	16(16)	直営

引用元：平成25年度神奈川県市町村公共施設概要
厚木市内部資料
神奈川県次世代育成課内部資料

(4) 都市公園

平成25年3月31日現在

自治体名	箇所数	面積(ha)	1人あたりの 公園面積(m ²)
横浜市	2,621	1652.86	4.48
藤沢市	296	165.59	3.97
逗子市	83	50.76	8.46
茅ヶ崎市	164	27.98	1.18
鎌倉市	243	99.8	5.74

引用元：神奈川県内市町村別都市公園整備状況（平成24年度末現在）
（平成26年9月29日公表）